みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

Bulletin of the National Museum of Ethnology Vol. 18No. 3; Cover, Contents,and others

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009196

1993——18巻3号

国立民族学博物館研究報告

●

魚毒漁の社会生態
——ネパールの丘陵地帯におけるマガールの事例から————南真木人

オーストラリア連邦と先住民アボリジニ
——アボリジニ政策と人々の生活体験に関するノート————松山利夫

オリエンタリズム批判と文化人類学————太田好信

Los Mixes ante la Civilización Universal: Reseña de las Observaciones y Reflexiones sobre los Cambios de la Sierra Mixe en los 1990s
————Etsuko Kuroda

国立民族学博物館
〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

18巻3号　　1993年

目　次

魚毒漁の社会生態
——ネパールの丘陵地帯におけるマガールの事例から——……南真木人……375

オーストラリア連邦と先住民アボリジニ
——アボリジニ政策と人々の生活体験に関するノート——……松山利夫……409

オリエンタリズム批判と文化人類学……太田好信……453

Los Mixes ante la Civilización Universal: Reseña de las Observaciones y Reflexiones sobre los Cambios de la Sierra Mixe en los 1990s……Etsuko Kuroda……495

彙　報……533

国立民族学博物館研究報告寄稿要項……540

国立民族学博物館研究報告執筆要領……541

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 18 No. 3 **1993**

MINAMI, Makito — Socio-Ecology of Poison Fishing: A Case Study of the Magars in the Middle Hills of Nepal ····· 375

MATSUYAMA, Toshio — A Note on Government Policy and Urban Aborigines' Life Histories in Adelaide, South Australia ··· 409

OTA, Yoshinobu — Anthropology and Postcolonial Criticism ····· 453

KURODA, Etsuko — Los Mixes ante la Civilización Universal: Reseña de las Observaciones y Reflexiones sobre los Cambios de la Sierra Mixe en los 1990s ····· 495

彙　報

（平成5年7月～平成5年9月）

人事異動

（教育職）

（昇　任）

7月1日　京都大学助教授　林　行夫
（第二研究部助手）

7月16日　第二研究部教授　田邉　繁治
（第二研究部助教授）

第三研究部教授　野村　雅一
（第三研究部助教授）

第三研究部教授　吉田　集而
（第二研究部助教授）

第五研究部教授　山本　紀夫
（第四研究部助教授）

第二研究部助教授　杉島　敬志
（第二研究部助手）

（配置換）

7月16日　第四研究部助教授　吉田　憲司
（第五研究部助教授）

9月1日　第四研究部助手　安村　直己
（東京大学助手）

（客員研究部門）

9月1日　第四研究部助教授　細川　弘明
（佐賀大学助教授）

（外国人客員研究部門）

［着　任］

9月16日　第五研究部教授　金　基　赫
（アメリカ合衆国，大韓民国浦項工科大学教授）
〈任期5. 9.16～6. 3.31〉

［任期満了］

9月15日　第五研究部教授
HOCKINGS, Paul
（イギリス，アメリカ合衆国イリノイ大学教授）
〈任期5. 4. 1～5. 9.15〉

9月30日　第五研究部教授
SIMONSE, Simon
（オランダ王国，インドネシア共和国スリウィジャヤ大学アドバイザー）
〈任期4.10. 1～5. 9.30〉

懇話会委員

［任期満了］

氏　名　　（任　期）

6月30日　伴　恭二（3. 7. 1～5. 6.30）

［新任委員］

7月1日　谷口　文夫（5. 7. 1～7. 6.30）

シンポジウム

◎民族学部門第17回国際シンポジウム「東アジアの人類学と韓国研究――方法論的比較――」

期間　平成5年8月29日（日）～9月5日（日）

場所　国立民族学博物館　求是荘

摘要　今回のシンポジウムでは，東アジアの人類学的研究のなかに韓国研究を位置づけ，韓国社会・文化研究のあたらしい方向について活発な討論がおこなわれました。

顧　問

梅棹　忠夫　財団法人千里文化財団会長

組織委員会

（委員長）

佐々木高明　国立民族学博物館長

（委　員）

藤井　知明　国立民族学博物館副館長

石毛　直道　国立民族学博物館第一研究部長

杉村　　棟　国立民族学博物館第二研究部長

和田　正平　国立民族学博物館第三研究部長

友枝　啓泰　国立民族学博物館第四研究部長

杉田　繁治　国立民族学博物館第五研究

部長
内藤　貞　国立民族学博物館管理部長
湯浅　叡子　財団法人千里文化財団専務理事

実行委員会
（委員長）
嶋　陸奥彦　広島大学総合科学部教授
国立民族学博物館第五研究部客員教授
（委　員）
松澤　員子　国立民族学博物館第一研究部教授
近藤　雅樹　国立民族学博物館第一研究部助手
重松真由美　国立民族学博物館第一研究部助手
上杉　富之　国立民族学博物館第二研究部助手
朝倉　敏夫　国立民族学博物館第四研究部助手
加藤　建夫　国立民族学博物館研究協力課長
宇治日出二郎
財団法人千里文化財団常務理事

参加者
Roger L. Janelli
インディアナ大学準教授（アメリカ合衆国）
金　光億　ソウル大学教授（大韓民国）
全　恵星　イースト・ロック・インスティチュート所長（アメリカ合衆国）
James L. Watson
ハーバード大学教授（アメリカ合衆国）
呂　重哲　嶺南大学教授（大韓民国）
劉　明基　慶北大学助教授（大韓民国）
朝倉　敏夫　国立民族学博物館助手
伊藤　亜人　東京大学教養学部教授
嶋　陸奥彦　広島大学総合科学部教授
国立民族学博物館第五研究部客員教授
末成　道男　東京大学東洋文化研究所教授
崔　吉城　中部大学国際関係学部教授
秀村　研二　明星大学日本文化学部専任講師
松澤　員子　国立民族学博物館教授

日　程
平成5年8月29日（日）～9月5日（日）
8月29日（日）（千里阪急ホテル）
17:00　登　録
8月30日（月）（国立民族学博物館）
13:00　開会式
第1セッション
（座長：嶋　陸奥彦）
13:30　Some Aspects of Yangbanization　朝倉　敏夫
14:15　討　論
第2セッション
（座長：全　恵星）
13:30　A Comparative Study of Ancestor Worship in East Asia　崔　吉城
14:15　討　論
8月31日（火）（国立民族学博物館）
第3セッション
（座長：伊藤　亜人）
10:00　Locality and Segmentation of Lineage in Korea　劉　明基
10:45　討　論
第4セッション
（座長：金　光億）
13:00　Korean Genealogies: Reconstruction of the Past　嶋　陸奥彦
13:45　討　論
第5セッション
（座長：崔　吉城）
15:00　Some Characteristics of Traditional Korean Kinship Structure: An Analysis of Criminal Cases of the

Choson Dynasty　全　恵星

15:45　討　論

9月1日（水）（国立民族学博物館）

第6セッション

（座長：朝倉　敏夫）

10:00　Unilateral Kindred: A Reconsideration in East Asian Societies

末成　道男

10:45　討　論

第7セッション

（座長：Roger L. Janelli）

13:00　Various Conflicts in Korean Clan Villages　呂　重哲

13:45　討　論

14:30　京都へ移動　ホテルギンモンドへ

9月2日（木）

京都観光

大津へ移動

9月3日（金）（求是荘）

第8セッション

（座長：末成　道男）

10:00　Reproduction of Confucian Culture in Social and Political Context of Contemporary Korea

金　光億

10:45　討　論

第9セッション

（座長：秀村　研二）

13:00　Coordination and Brokerage——Leadership in Community Development in Rural Korea　伊藤　亜人

13:45　討　論

第10セッション

（座長：呂　重哲）

15:00　The Genealogy of "Making Harmony" among Co-workers of a South Korean Conglomerate

Roger L. Janelli

15:45　討　論

9月4日（土）（求是荘）

第11セッション

（座長：劉　明基）

10:00　Social Change and Christianity in Modern Korean Sociaty

秀村　研二

10:45　討　論

総括報告／総合討論

13:00　総括報告①：James L. Watson

総括報告②：松澤　員子

総合討論　座長：Roger L. Janelli

嶋　陸奥彦

16:30　閉会式

9月5日（日）（ホテルレークビワ）

第11セッション

10:00　ワークショップ

解散

◎「シナ・チベット系諸民族の言語文化——東アジア諸言語のダイナミズムを求めて——」

期間　平成5年9月13日（月）～9月17日（金）

場所　国立民族学博物館

摘要　シナ・チベット系諸言語と周辺の言語群の歴史的・共時的諸問題と言語文化について東アジア全体の言語グループの相互関係に関するより広い枠組みを構築するため，活発な討論がおこなわれました。

組　織

代表者

佐々木高明　国立民族学博物館長

運営委員会委員

北村　甫　東洋文庫理事長

西田　龍雄　学術情報センター企画調整官

石井　米雄　上智大学教授

平山　久雄　早稲田大学教授

梅棹　忠夫　財団法人千里文化財団会長

西　義郎　神戸市外国語大学教授

中嶋　幹起　東京外国語大学教授

藪　司郎　大阪外国語大学教授

辻　伸久　慶應義塾大学教授

柴谷　方良　神戸大学教授

武内　紹人　京都教育大学助教授
藤井　知昭　国立民族学博物館企画調整官
崎山　　理　国立民族学博物館教授
栗田　靖之　国立民族学博物館教授
立川　武蔵　国立民族学博物館教授
長野　泰彦　国立民族学博物館助教授（座長）

招待講演者

国　外

David Bradley
ラトローブ大学教授（オーストラリア）
Inga-Lill Hansson
ルンド大学教授（スウェーデン）
George van Driem
ライデン大学教授（オランダ）
戴　　慶厦　中央民族学院教授（中華人民共和国）
唐　　作藩　北京大学教授（中華人民共和国）
李　　栄　中国社会科学院教授（中華人民共和国）
孫　　宏開　中国社会科学院教授（中華人民共和国）
游　　汝傑　復旦大学教授（中華人民共和国）

国　内

北村　　甫　東洋文庫理事長
西田　龍雄　学術情報センター企画調整官
平山　久雄　早稲田大学教授
西　　義郎　神戸市外国語大学教授
中嶋　幹起　東京外国語大学教授
藪　　司郎　大阪外国語大学教授
辻　　伸久　慶應義塾大学教授
柴谷　方良　神戸大学教授
武内　紹人　京都教育大学助教授

日　程

平成5年9月13日（月）～9月17日（金）

9月13日（月）（国立民族学博物館）
11:00　登　録
13:00　基調講演
『シナ・チベット語族管見』
西田　龍雄
15:00　パネル・ディスカッション
『シナ・チベット言語学における問題と発展』
パネラー：西田　龍雄
David Bradley
George van Driem
戴　　慶厦
唐　　作藩
孫　　宏開

9月14日（火）（国立民族学博物館）
9:00　ワークショップ
『上古漢語』　李　　栄
『ビルマ言語学』
Inga-Lill Hansson
13:00　ワークショップ
『中国大陸における統語発展論』
游　　汝傑
『タイ言語学』　藪　　司郎
15:30　ワークショップ
『オーストロータイ言語学』
James A. Matisoff
16:00　ワークショップ
『中国大陸における言語接触〈北部〉』　中嶋　幹起

9月15日（水）（国立民族学博物館）
9:00　ワークショップ
『中国大陸における言語接触〈南部〉』　辻　　伸久
『チベット言語学』　北村　　甫
13:00　ワークショップ
『シナ・チベット語類型論』
柴谷　方良
16:00　ワークショップ
『西夏言語学』　西田　龍雄

9月16日（木）（国立民族学博物館）
9:00　ワークショップ
『チベット・ビルマ語統辞論』

西　義郎

9:00　全体討論

『中国語の声調』　平山　久雄

13:00　ワークショップ

『チベット・ビルマ語形態統辞論』

Boyd Michailovsky

13:00　全体討論

『中国語統語論』　平山　久雄

9月17日（金）（国立民族学博物館）

9:00　全体討論

『中国語文法』　Søren Egerod

『中国語音韻論と方言』

Alain Peyraube

『チベット・モンゴル研究』

立川　武蔵

『社会言語学』　Gérard Diffloth

10:30　全体討論

『チベット語研究』　武内　紹人

12:30　全体討論

『アッサム・ネワール言語学』

Purna Thoudam

13:00　全体討論

『中国語文法』　Randy LaPolla

『中国語統語論』　Julian Wheatley

『オーストロ・アジア言語学』

崎山　理

海外における研究・調査・収集活動

氏　名	官　職	出　発	帰　国	行　先
江口　一久	助教授（第三研究部）	5. 7. 1	5. 7.10	大韓民国
田邉　繁治	助教授（第二研究部）	5. 7. 1	5. 7.18	イギリス
大森　康宏	助教授（第五研究部）	5. 7. 4	5. 8.10	フランス，イタリア
和田　正平	教　授（第三研究部）	5. 7.10	5. 7.22	タンザニア
庄司　博史	助教授（第三研究部）	5. 7.14	5. 9.16	エストニア，ロシア，フィンランド
立川　武蔵	教　授（第二研究部）	5. 7.15	5. 7.31	インド，ネパール
江口　一久	助教授（第三研究部）	5. 7.16	5. 8.10	中華人民共和国
中牧　弘允	助教授（第一研究部）	5. 7.24	5.10.23	ブラジル
藤井　知昭	教　授（第二研究部）	5. 7.25	5. 8. 3	中華人民共和国
八杉　佳穂	助教授（第四研究部）	5. 7.26	5. 9.22	メキシコ，グアテマラ，ベリーズ，ホンジュラス
松澤　員子	教　授（第一研究部）	5. 7.29	5. 8. 5	台湾
小長谷有紀	助教授（第一研究部）	5. 7.29	5. 8.14	中華人民共和国
南　真木人	助　手（第三研究部）	5. 7.30	5. 8.24	ネパール
小山　修三	教　授（第四研究部）	5. 8. 2	5. 8.14	デンマーク，ノルウェー，アイスランド
栗田　靖之	教　授（第二研究部）	5. 8. 8	5. 9. 5	ブータン，インド，ケニア
藤井　知昭	教　授（第二研究部）	5. 8. 9	5. 8.28	ラオス
立川　武蔵	教　授（第二研究部）	5. 8.17	5. 9. 9	中華人民共和国
佐藤　浩司	助　手（第四研究部）	5. 8.25	5.12.24	マレーシア
山本　紀夫	教　授（第五研究部）	5. 8.27	5.11.14	ペルー，ボリビア，エクアドル，グアテマラ，メキシコ，キューバ，ジャマイカ，ドミニカ
塚田　誠之	助教授（第二研究部）	5. 8.30	5. 9.13	中華人民共和国
田邉　繁治	教　授（第二研究部）	5. 9. 6	5.12.31	タイ
石毛　直道	教　授（第一研究部）	5. 9. 7	5. 9.17	台湾

熊倉　功夫	教　授（第一研究部）	5. 9. 8	5. 9.17	台湾
大塚　和義	教　授（第五研究部）	5. 9. 8	5. 9.30	ロシア
吉田　憲司	助教授（第四研究部）	5. 9.11	5.12.10	ザンビア，イギリス
栗田　靖之	教　授（第二研究部）	5. 9.17	5. 9.26	フランス，イギリス
立川　武藏	教　授（第二研究部）	5. 9.30	5.10.31	アメリカ合衆国

来館者抄

7月1日　青山　瑩純(三重県教育委員会)　藤本　達生（財団法人日本エスペラント学会理事）

7月6日　王　　剣（中華人民共和国，少年宮音楽講師），胡　　爽（中華人民共和国，音楽講師）

7月12日　新行内孝男（駒沢オリンピック公園総合運動場副所長）他3名

7月13日　高井　三郎（野外民族博物館リトルワールド部長），亀井　哲也（野外民族博物館リトルワールド学芸研究員）

7月14日　木村　五郎（松本油脂製薬株式会社代表取締役）
フォーラム大阪一行　座長：加藤　秀俊（放送教育開発センター所長），山室　英男（日本放送出版協会顧問），伊藤　滋（東京大学名誉教授），高原須美子（経済評論家），深田　宏（伊藤忠商事顧問），宮崎　勇（株式会社大和総研理事長），原　　正敏（大阪府企画調整部長）

7月15日　天羽　利夫（徳島県立博物館副館長），鎌田　麿人（徳島県立博物館学芸員）

7月16日　石井　　進（国立歴史民俗博物館長）

7月19日　黒宮　哲之（三重県三雲町長），世古　　勝（三重県三雲町総務課長），松浦　　清

7月23日　タイ王国行政委員会訪日研修団一行

7月27日　角山　　榮（堺市博物館長）

7月29日　遠山　庄治（沖縄国際大学工学部教授）
ブラジル日本語教師訪日研修団一行　団長：尾崎　　守　他9名

8月3日　小笠原　暁（芦屋大学教授），黒木　勝実(宮崎県椎葉村助役)　山崎　朋子（作家）

8月5日　伊藤　恭一（昭和報公会理事長），原山　昌三（昭和報公会事務長）
LECLANT, Jean(フランス共和国，フランス学士院碑文・文芸アカデミー終身事務局長）夫妻

8月8日　森山　眞弓（文部大臣），尾山（秘書官），遠藤　昭男（文部省体育局体育課長）

8月9日　岩井　宏實（国立歴史民俗博物館民俗研究部長）

8月16日　HIRANBURANA, Samang（タイ王国，Srinakharinwirot　大学

Research and International Relation 副部長）

9月3日　田中　一郎（大阪大学附属図書館長）

9月8日　SEDYAWATI, Edi（インドネシア共和国，教育文化省文化総局長），SATARI, Sri Soejatmi（インドネシア共和国，教育文化省博物館局長），KARTIWA, Suwati（インドネシア共和国，インドネシア国立博物館長）

9月13日　渡辺　一雄（文部省学術国際局国際学術課国際学術調整官）

9月14日　VUONG, Toan（ベトナム社会主義共和国社会科学院言語文学部副部長）

9月15日　LIELOP, Robert F.（バヌアツ共和国国連常駐大使），MOUMIN, Amini Ali（コモロ・イスラム連邦共和国国連常駐大使）

9月16日　坪内　良博（京都大学東南アジア研究センター所長）

9月17日　安澤　秀一（記録管理学会会長），戸田　光昭（姫路獨協大学教授），藤本ますみ（聖泉短期大学助教授）

9月21日　CRUZ, Jose Luis（メキシコ合衆国，メキシコ国立人類学博物館副館長）夫妻，TERAN, Veronica（メキシコ合衆国，女優）
下中　直也（財団法人地図情報センター専務理事），久田　龍二（財団法人地図情報センター事務局長）

9月24日　上海市消防防災専門家訪日団一行　団長：顧　永　和（中華人民共和国，上海市公安局長助理），徐　耀　標（中華人民共和国，上海市消防局長），陳　飛（中華人民共和国，上海市消防学校長），沈　友　弟（中華人民共和国，上海市消防局建審処長）

9月29日　Poeger GBPH（インドネシア共和国，教育文化省前文化総局長）夫妻

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は，民族学（文化人類学）に関する論文，資料・研究ノート，調査研究活動報告等を掲載・発表することにより，民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は，次のとおりとする。
   (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織，運営に関与する者
   (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
   (3) その他本館において適当と認めた者
3. 原稿を寄稿する場合は，論文，資料・研究ノート，調査研究活動報告等のうち，いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお，この区分についての最終的な調整は，国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は，原則として論文及び資料・研究ノートを1段組，その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は，日本語，英語，フランス語，スペイン語，ロシア語，中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし，その他の言語を用いる場合は，編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字，記号，印刷方法等が必要な場合は，編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で，日本語を使用する場合は，原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし，その他の言語による論文の場合は，編集委員会に相談するものとする。なお，寄稿する原稿については，執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は，原則として制限しない。ただし，編集する場合は編集委員会の判断により，紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は，必ず清書（欧文の場合はタイプ）し，原稿の写し1部を添付するものとする。なお，図，表のスミ入れ，レタリングは，編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は，審査委員会において審査のうえ，採否を決定する。なお，原稿は，採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い，掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては，別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は，次のとおりとする。

〒565　大阪府吹田市千里　万博公園10-1
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話　代表06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は，200字詰原稿用紙を使用し，横書きとする。
2. 原稿は，図，表を除き，原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は，原則として当用漢字，現代かなづかいを用いる。
4. 句読点，括弧，各種記号等は，原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号，月日及びその他の数字は，原則としてアラビア数字を用いる。なお，年号は，原則として西暦とする。
6. 図及び表は，一図，一表ごとに別紙に書き，本文とは別に一括して添付するものとする。なお，図，表ごとに通し番号（「図1」，「表1」等の要領により記入），図，表名及び説明並びに出典等を記し，本文原稿の欄外には，それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は，写りの明瞭なもので，手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り，図及び表の扱いに準じて通し番号，説明を付けたうえ，そう入箇所を指定するものとする。ただし，カラー写真は，原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は，カギ括弧を付け，著者名，文献刊行年次，引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

   ［柳田　1942: 67–69］

   ［Leach 1961: 123］

   ［柳田　1942: 67–69, 1944: 20–22; Leach　1961: 123］

   ただし，同年次刊行物の場合は，アルファベット順により，下記のように記載するものとする。

   ［柳田　1942a: 20–22］［柳田　1942b: 10］
9. 脚注は，一つ一つ別紙に記し，通し番号を付ける。なお，本文中に脚注をそう入する箇所には，脚注の当該番号を記入し，別紙の脚注には，本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は，すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

   (1)　文献の配列は，著者名のアルファベット順とすること。

   (2)　文献の記載は，著者名，年号，論題（タイトル），誌名，巻，号，出版社名の順とすること。

   欧文の雑誌名及び単行本名は，イタリック体にするため，原稿には下線を引くこと。また，ローマ字人名は，スモール・キャピタルとするため，二重下線を引き，日本文の場合は，論題にカギ括弧，雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は，原則としてアラビア数字を用いること。

   （例）

   論文の場合（1）

   石田英一郎

   1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13 (4): 311–330。

   Bohannan, P.

   1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14 (4): 357–372.

論文の場合（2）

杉浦　健一

1942「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店，pp. 117–143。

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23–63.

単行本の場合

泉　　靖一

1966『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ，M.

1974『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』堀一郎訳　冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告　18巻3号

〔監　　修〕
佐々木　高　明
〔編集委員長〕
友　枝　啓　泰
〔編集委員〕
朝　倉　敏　夫
江　口　一　久
近　藤　雅　樹
崎　山　　理
清　水　昭　俊
新　免　光比呂
田　村　克　己
長　野　泰　彦
野　村　雅　一
松　山　利　夫
吉　田　集　而

平成6年2月28日　発　行　非売品

国立民族学博物館研究報告　18巻3号

編集・発行　国立民族学博物館
〒565　吹田市千里万博公園10-1
TEL　06 (876) 2151(代表)

印　　刷　中西印刷株式会社
〒602　京都市上京区下立売通小川東入
TEL　075 (441) 3155(代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.18 no.3
1993

MINAMI, Makito — Socio-Ecology of Poison Fishing: A Case Study of the Magars in the Middle Hills of Nepal

MATSUYAMA, Toshio — A Note on Government Policy and Urban Aborigines' Life Histories in Adelaide, South Australia

OTA, Yoshinobu — Anthropology and Postcolonial Criticism

KURODA, Etsuko — Los Mixes ante la Civilización Universal: Reseña de las Observaciones y Reflexiones sobre los Cambios de la Sierra Mixe en los 1990s

ISSN 0385-180X

National Museum of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151